

教職の魅力創造プロジェクトに参加して

深瀬 百合（山形大学地域教育文化学部児童教育コース4年）

私は、教職の魅力創造プロジェクトを通して、非常に貴重な経験をさせていただいたうえに、本物に触れる「機会」の大切さを学ぶことができました。

1. 学びのフォーラム

「学びのフォーラム」では、多様な人々と関わりながら、普段は考えないような「『できる』『学ぶ』『遊ぶ』とはどういうことか」について追究することができます。高校生・大学生・社会人が同じ課題に向かって、それぞれの経験や考えをもとに創り上げる場です。私が参加したときに印象的だったのは、現役の小学校の先生の「ぶらぶらしていたい」という発言でした。これは授業において、すぐにわかるよりも、ぶらぶらと寄り道しながらわからない状態を楽しみたいという意味です。わからないことに否定的な感情を抱いていた私には衝撃的で、わかるという結果だけではなく、その過程も大切にすべきだということに気づきました。教師の役割について改めて考える契機になった回でした。

「学びのフォーラム」は、様々な年代・立場・環境の人々と関わることで、多くの「気づき」が得られます。現役の先生方は高校生の忖度のない声を戒めにしたり、大学生や高校生は現場の声を聞けたりと、ここでの出会いが自分をより深めてくれます。

2. 小学校体験セミナー

「小学校教員体験セミナー」では、高校生と大学生が一緒になって、授業を見たり子どもたちと関わったりします。最初は不安や緊張でその場に固まっていた高校生も、最後は子どもたちに視線を合わせて素敵な笑顔を浮かべていました。大学生として参加していた自分も、児童との関わり方や問題への対処に関する高校生の考えを聞き、新たな見方・考え方を得ることができました。私が印象的だったのは、小学2年生の算数の授業で、ある児童が他者のノートを覗いていたことでした。私はその児童が、他者のノートを見て答えを写していると捉えました。しかし、同じ場面を見ていた高校生の女の子は、他者の書き方や考え方を学んでいると捉えており、高校生の柔軟な考えに驚かされました。

教師の立場を、身を持って体験できる「機会」があることで、自分の適性や教職の面白さに気づくことができる。さらに、「学びのフォーラム」同様、立場が異なる人と関わることで視野を広げることができる場です。

3. プラットフォーム会議

「プラットフォーム会議」では、高校生・大学生・教員・行政官などが参加しており、一人ひとりが教職の現状を重く受け止め、教職の魅力を伝えたいという熱い想いを抱いていました。それぞれの熱意が伝播し、一丸となって本プロジェクトをよりよいものにしようと努めています。本プロジェクトは、教育に関わるすべての人が主役です。これからも、本プロジェクトがより多くの人に「機会」をもたらし、教職の魅力を紡いでいってほしいと思います。